

2014/4/16

柏の景気情報（平成26年3月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 経営支援一課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成26年3月分）

○ 調査期間 : 平成26年3月19日 ~ 3月27日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	80	51.3%
建設	44	22	50.0%
製造	33	15	45.5%
卸・小売	43	28	65.1%
サービス	36	15	41.7%

○ 調査方法 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。
と調査表

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成26年3月の調査結果のポイント】

◀業況DIはやや改善 増税前の駆け込み需要の影響大きく▶

○3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲11.2(前月水準▲17.6)となり、マイナス幅が6.4ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、建設業4.5(同▲16.6)であり、21.1ポイントと大幅に改善した。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲32.1(同▲35.7)である。変わらない業種は、製造業±0.0(同±0.0)、サービス業▲6.6(▲6.6)である。

【建設業】からは、「消費税増税の影響で、増税前にとお客様からの問い合わせがうれしい限り。増税後も畳の良さを伝え続けていきたい(内装工事業)」、「選別の段階に入ったかに思えたのですが意外に手堅く好調に推移している。これは長く不況が続いていたうちに相当淘汰されてしまったのかと考えられる。油断はできませんがこの消費税8%はクリアできそうです(一般土木建築工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「静かなる値上げの形で潜行的に進んでいた段原紙の価格交渉が3月に入って一挙に始まってきたようだ(紙製容器製造業)」、「設備投資を行ったが稼働率が低下している。また消費増税の引き上げに伴い経費負担の増加が見込まれる(一般産業用機械・装置製造業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「中旬くらいまで低温で春物不調。衣料品は家電等の増税先買いに押され割を食っている感じ。4月以降は益々不安(婦人・子供服小売業)」、「客数は前年並みでも単価増で前年対比で伸びている。パートアルバイトの募集は人材が集まりにくくなっている(その他の各種商品小売業)」、「苦渋の決断で総売り上げの75%を占めるガス料金の価格改正をした。結果3月には赤字幅が減少した。少しでも赤字幅を少なくするには何に重点を置くか考慮中です(燃料小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「最悪な状態は終わり3月は前年同月の水準に戻したが来月はどのようにお客様が利用されるのか予想が付かないです(酒場・ピヤホール)」、「宿泊は柏全体のシェアは上がり稼働は上がるもののWEB販売により客単価の減少となり清掃・リネン費等の原価が増え収益が悪化。宴会は謝恩会、送別会の獲得が大きく件数単価ともに昨年並みを推移。宴席の問い合わせ多いが日時が重なっているため獲得できず。消費税の値上げにより、仕入れ単価が若干あがる。」(ホテル)、「消費税のかけこみ需要も終わり、市況は厳しくなっています。先月に続き建築材料、人手ともに高騰しています(不動産管理業)などのコメントが寄せられた。

◎消費税増税

各業種から、「消費税が増税されるため問い合わせが増加し受注も増えているが、受注価格は依然として抑えられてしまう。転嫁はある程度できると思うがすべては厳しいと思う(塗装工事業)」、「消費税が上がり、仕入れ総額が増加してもお客様には理解されず前年同様の総額受注となりその分利益は抑えられてしまう(印刷業)」、「消費税の価格表示対応で超多忙。対応の為1日休業予定。来年の10%への対応で仕入れ単価の上昇が見られる。」(その他の飲食料品小売業)、「消費税率引き上げによる表示やお客様への通知作業に追われました。4月以降の消費の冷え込みは仕方ないと思っています(不動産賃貸業)などのコメントが寄せられた。

◎駆け込み需要

各業種から、「消費税増税前の駆け込みで売上は上昇。4月以降の落ち込みが心配。マスコミ報道に国民は左右されていると思う(電気工事業)」、「前月に引き続き消費税増税前の駆け込み需要有り。4月以降は業績不透明(酒類製造業)」、「時計・宝飾品の高額品の動きが活発になるものの、婦人衣料は気温上がり苦戦。増税前の特需は、化粧品・インナーウェア・宝飾・時計など的高額商材に顕著に現れ、当初想定していた97年の動きと類似している。4月以降も97年と同様の推移を想定しており前年回復までは数カ月要すると考えている(百貨店)」、「消費税駆け込み需要後4月から新築建売。戸建て及びマンションの落ち込みが考えられる(不動産代理業・仲介業)」、「消費税増税の影響で、増税前にとお客様からの問い合わせがうれしい限り。増税後も畳の良さを伝え続けていきたい(内装工事業)などのコメントが寄せられた。

◎仕入れ単価上昇

各業種から、「消費税増税により仕入れ単価の上昇。ベースアップによる個人観光需要への期待感がある(旅行業)」、「現況は年度末と消費税対策駆け込みがあり、作業員が足りなく仕入れ単価は上昇している状態。来年度は、見込みが薄く展開に苦慮している。好転を願うばかり(ソフトウェア業)」、「静かなる値上げの形で潜行的に進んでいた段原紙の価格交渉が3月に入って一挙に始まってきたようだ(紙製容器製造業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
10月	▲12.7	△25.0	±0.0	▲41.9	▲26.6
11月	▲14.9	△8.3	△6.6	▲45.4	▲6.6
12月	▲14.4	△13.6	±0.0	▲37.1	▲16.6
1月	▲2.2	△29.1	△22.2	▲40.6	±0.0
2月	▲17.6	▲16.6	±0.0	▲35.7	▲6.6
3月	▲11.2	△4.5	±0.0	▲32.1	▲6.6
見通し	▲30.0	▲22.7	▲33.3	▲46.4	▲6.6

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成26年3月の業況についての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲11. 2(前月水準▲17. 6)となり、マイナス幅が6. 4ポイント縮小した。

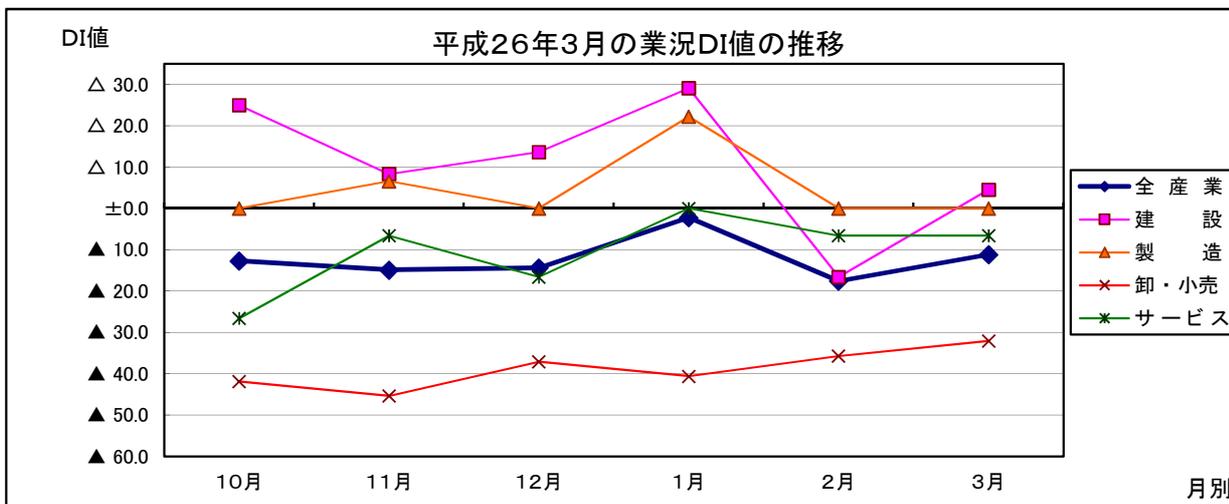
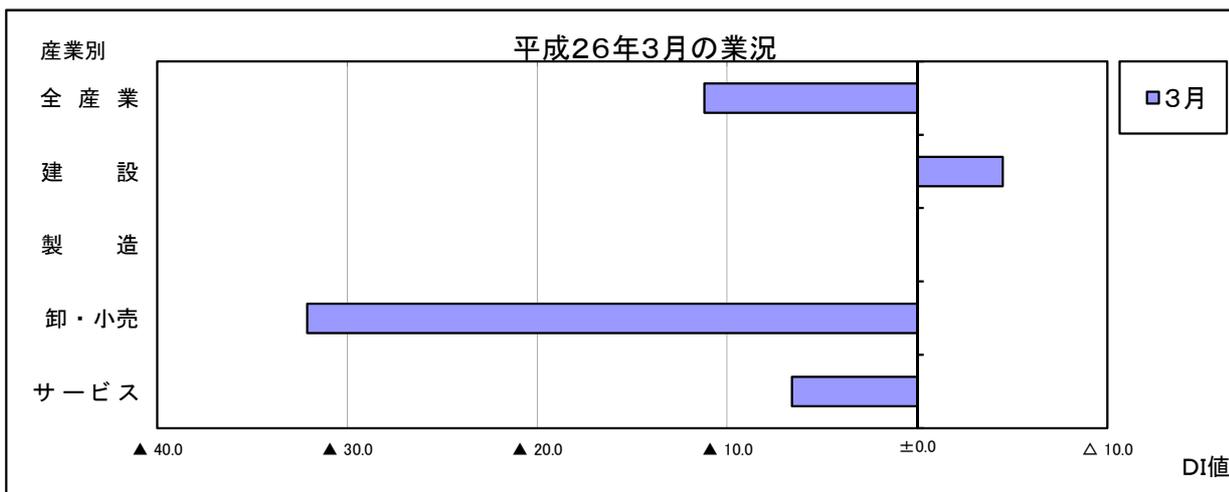
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、建設業4. 5(同▲16. 6)であり、21. 1ポイントと大幅に改善した。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲32. 1(同▲35. 7)である。変らない業種は、製造業±0. 0(同±0. 0)、サービス業▲6. 6(▲6. 6)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲30. 0(前月水準▲20. 0)となり、マイナス幅が▲10. 0ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、サービス業▲6. 6(同6. 6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲33. 3(同▲22. 2)、卸小売業▲46. 4(同▲35. 7)、建設業▲22. 7(同▲16. 6)である。

平成26年3月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成25年 10月	11月	12月	平成26年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
全産業	▲12.7	▲14.9	▲14.4	▲2.2	▲17.6	▲11.2	▲30.0(▲20.0)
建設	△25.0	△8.3	△13.6	△29.1	▲16.6	△4.5	▲22.7(▲16.6)
製造	±0.0	△6.6	±0.0	△22.2	±0.0	±0.0	▲33.3(▲22.2)
卸・小売	▲41.9	▲45.4	▲37.1	▲40.6	▲35.7	▲32.1	▲46.4(▲35.7)
サービス	▲26.6	▲6.6	▲16.6	±0.0	▲6.6	▲6.6	▲6.6(△6.6)



【平成26年3月の売上についての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、5.0(前月水準▲7.0)となり、プラス方向へ12.0ポイント拡大した。

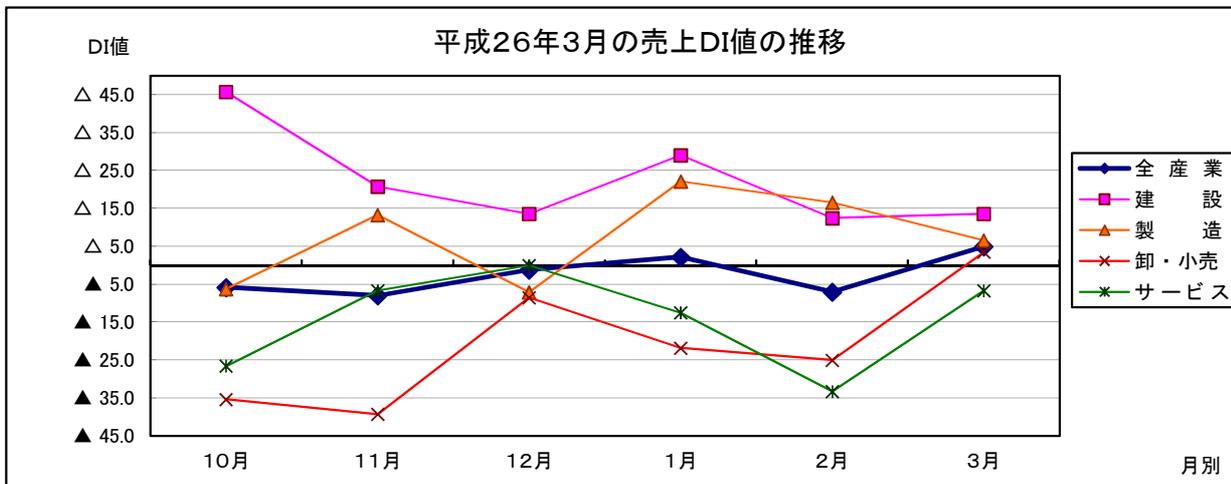
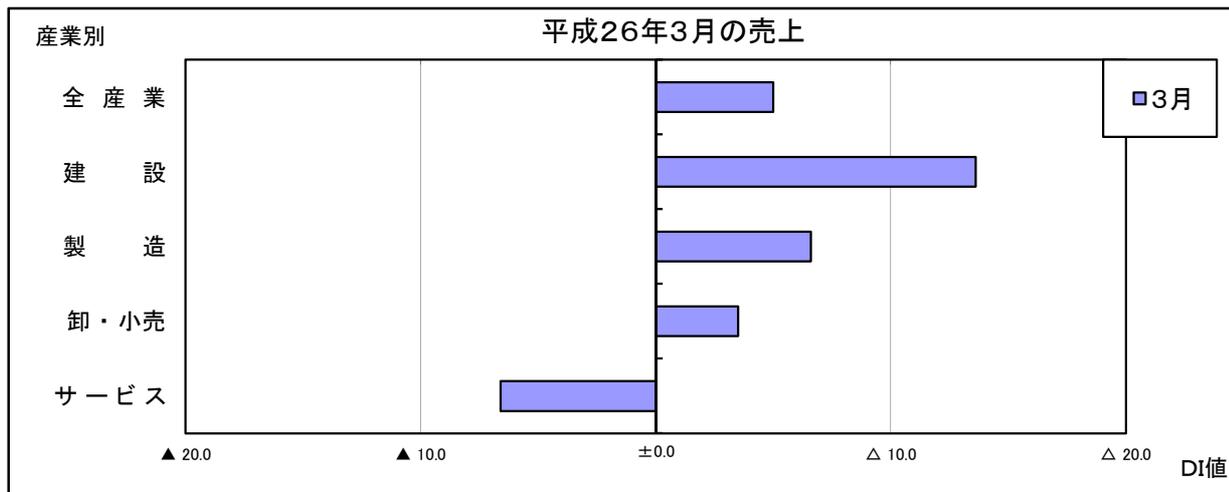
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、建設業13.6(同12.5)である。マイナスからプラスに転じた業種は、卸小売業3.5(同▲25.0)であり、28.5ポイントと大幅に改善した。マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲6.6(同▲33.3)である。プラス幅が縮小した業種は、製造業6.6(同16.6)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲22.5(前月水準▲9.4)となり、マイナス幅が▲13.1ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、建設業9.0(同8.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲46.6(同▲5.5)、卸小売業▲42.8(同▲32.1)、サービス業▲6.6(同±0.0)である。特に、製造業はマイナス幅が▲41.1ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成26年3月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成25年 10月	11月	12月	平成26年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
全産業	▲5.8	▲8.0	▲1.2	△2.2	▲7.0	△5.0	▲22.5(▲9.4)
建設	△45.8	△20.8	△13.6	△29.1	△12.5	△13.6	△9.0(△8.3)
製造	▲6.2	△13.3	▲7.1	△22.2	△16.6	△6.6	▲46.6(▲5.5)
卸・小売	▲35.4	▲39.3	▲8.5	▲21.8	▲25.0	△3.5	▲42.8(▲32.1)
サービス	▲26.6	▲6.6	±0.0	▲12.5	▲33.3	▲6.6	▲6.6(±0.0)



【平成26年3月の採算についての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲8.7(前月水準▲25.8)となり、マイナス幅が17.1ポイント縮小した。

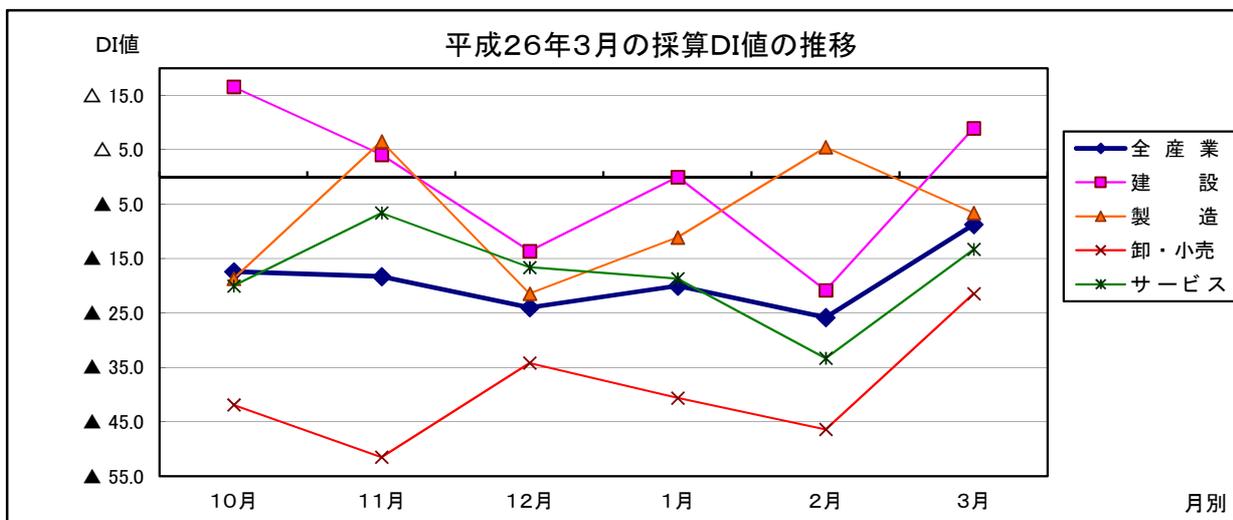
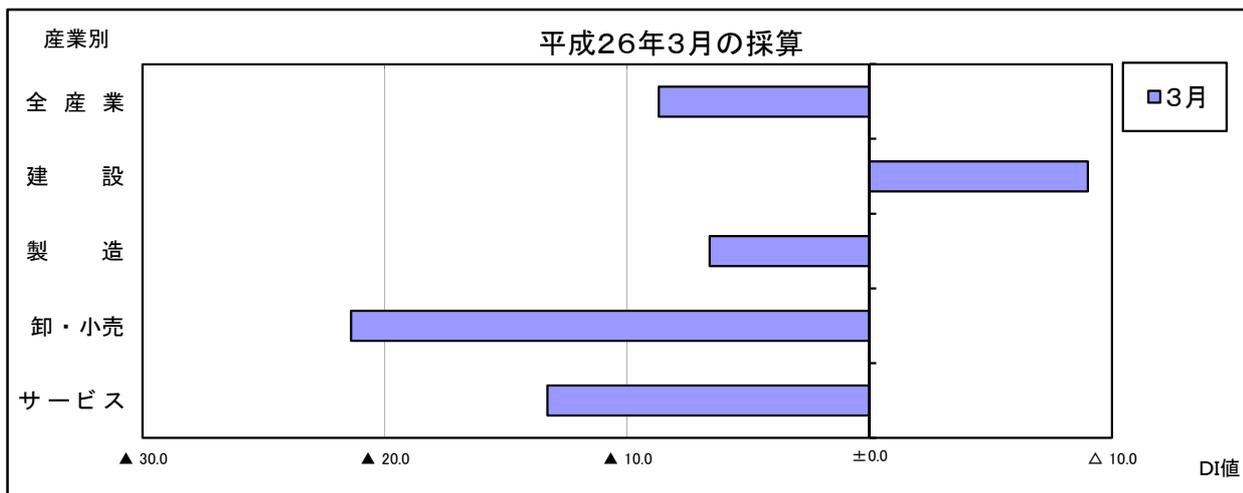
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、建設業9.0(同▲20.8)であり、29.8ポイントと大幅に改善した。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲21.4(同▲46.4)、サービス業▲13.3(同▲33.3)である。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲6.6(同5.5)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲33.7(前月水準▲22.3)となり、マイナス幅が▲11.4ポイント拡大する見通しである。

マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲53.3(同▲22.2)、卸小売業▲57.1(同▲46.4)、サービス業▲13.3(同▲6.6)、建設業▲4.5(同▲4.1)である。特に、製造業はマイナス幅が▲31.1ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成26年3月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成25年 10月	11月	12月	平成26年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
全産業	▲17.4	▲18.3	▲24.0	▲20.0	▲25.8	▲8.7	▲33.7(▲22.3)
建設	△16.6	△4.1	▲13.6	±0.0	▲20.8	△9.0	▲4.5(▲4.1)
製造	▲18.7	△6.6	▲21.4	▲11.1	△5.5	▲6.6	▲53.3(▲22.2)
卸・小売	▲41.9	▲51.5	▲34.2	▲40.6	▲46.4	▲21.4	▲57.1(▲46.4)
サービス	▲20.0	▲6.6	▲16.6	▲18.7	▲33.3	▲13.3	▲13.3(▲6.6)



【平成26年3月の仕入単価についての状況】

○3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲45.0(前月水準▲49.4)となり、マイナス幅が4.4ポイント縮小した。

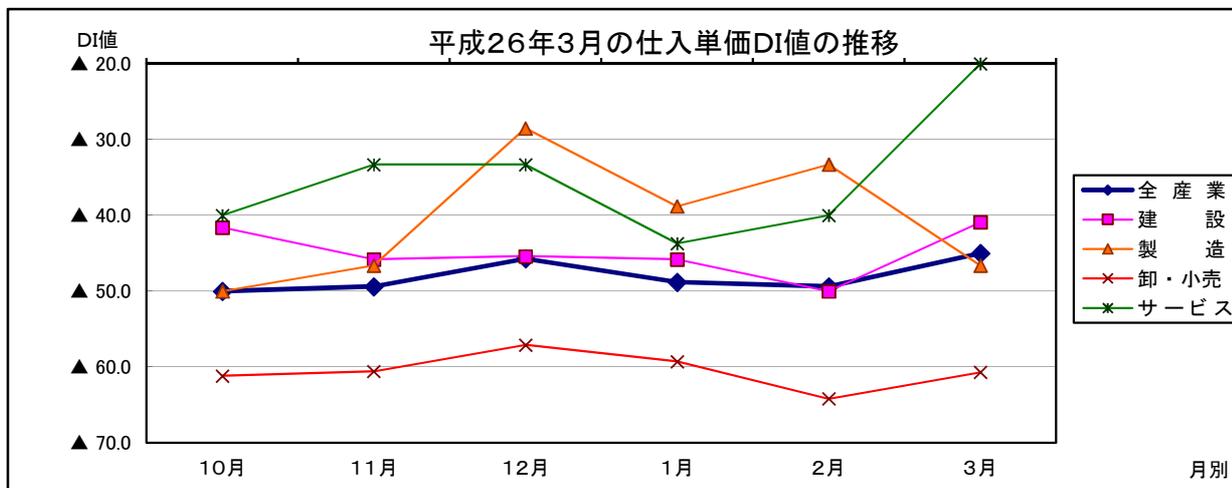
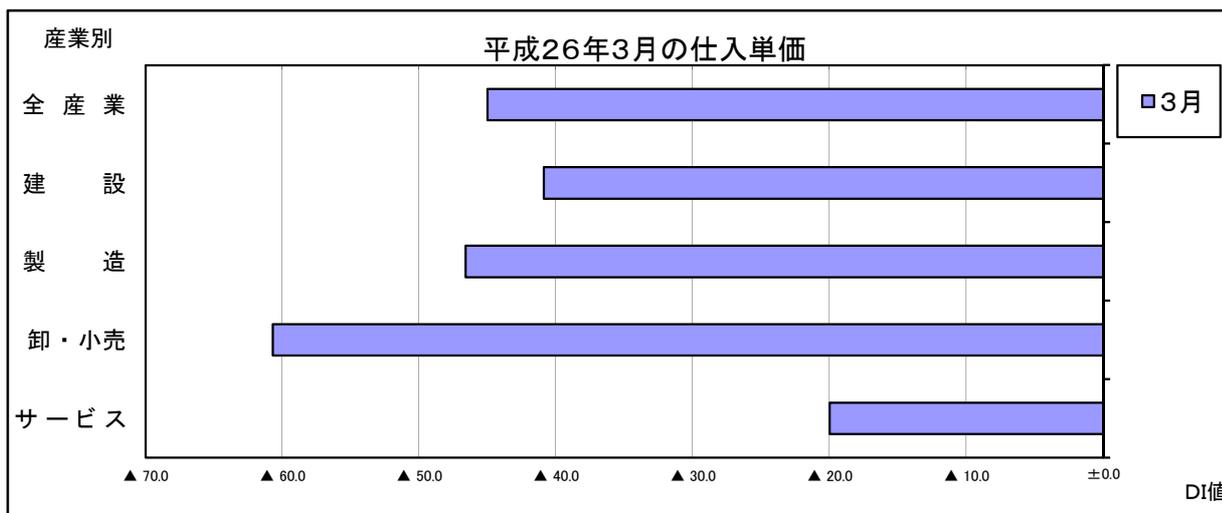
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲20.0(同▲40.0)、建設業▲40.9(同▲50.0)、卸小売業▲60.7(同▲64.2)である。特に、サービス業はマイナス幅が20.0ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲46.6(同▲33.3)である。

○向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲55.0(前月水準▲44.7)となり、マイナス幅が▲10.3ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲57.1(同▲60.7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲60.0(同▲27.7)、サービス業▲40.0(同▲20.0)、建設業▲59.0(同▲54.1)である。特に、製造業はマイナス幅が▲32.3ポイントと大幅に拡大する見通しである

平成26年3月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成25年 10月	11月	12月	平成26年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
全産業	▲50.0	▲49.4	▲45.7	▲48.8	▲49.4	▲45.0	▲55.0(▲44.7)
建設	▲41.6	▲45.8	▲45.4	▲45.8	▲50.0	▲40.9	▲59.0(▲54.1)
製造	▲50.0	▲46.6	▲28.5	▲38.8	▲33.3	▲46.6	▲60.0(▲27.7)
卸・小売	▲61.2	▲60.6	▲57.1	▲59.3	▲64.2	▲60.7	▲57.1(▲60.7)
サービス	▲40.0	▲33.3	▲33.3	▲43.7	▲40.0	▲20.0	▲40.0(▲20.0)



【平成26年3月の従業員についての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、3.7(前月水準9.4)となり、プラス幅が▲5.7ポイント縮小した。

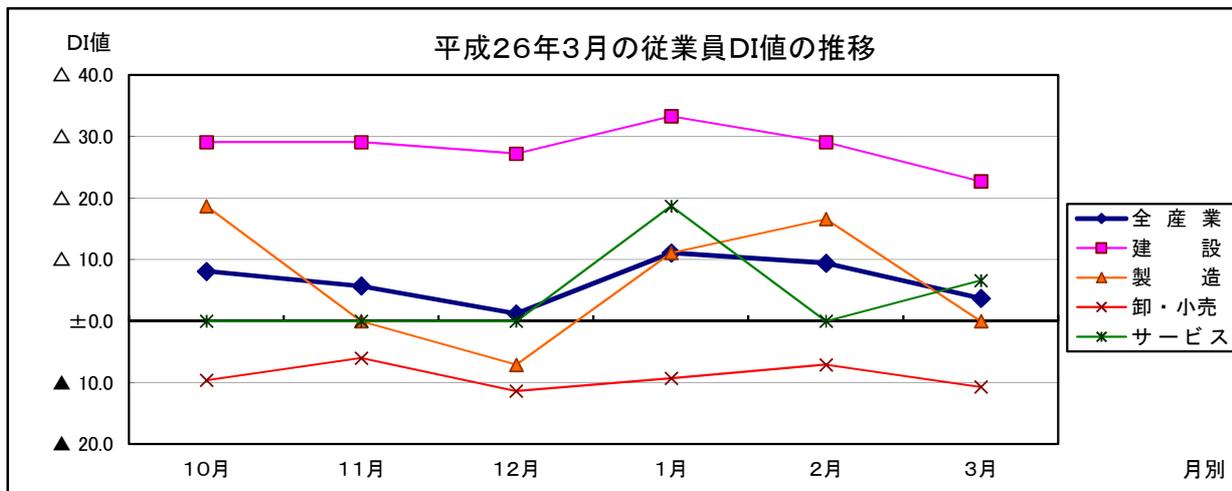
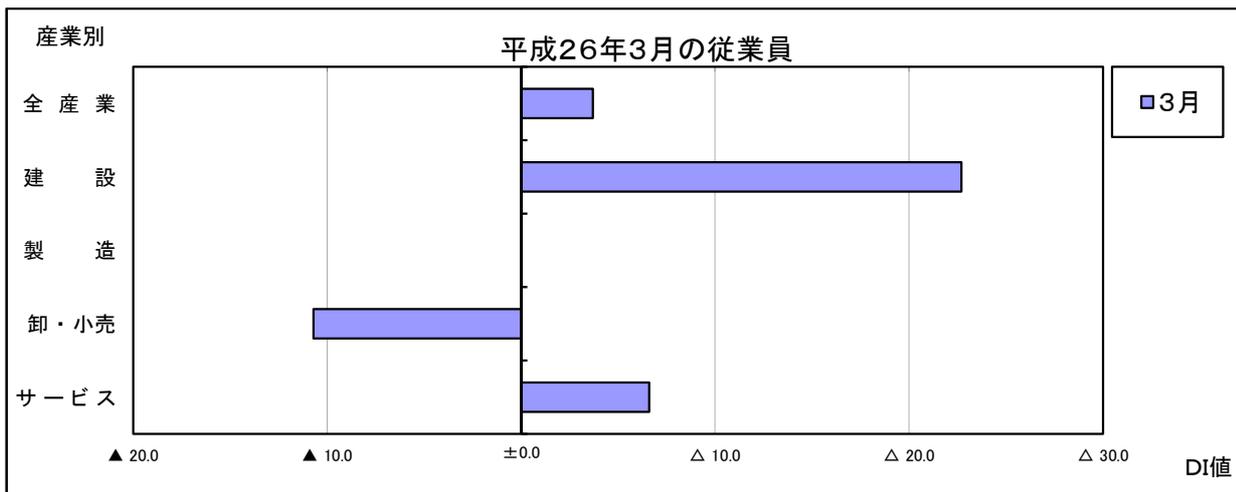
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、サービス業6.6(同±0.0)である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業±0.0(同16.6)、建設業22.7(同29.1)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲10.7(同▲7.1)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、6.2(前月水準7.0)となり、プラス幅が▲0.8ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、サービス業13.3(同±0.0)、製造業6.6(同±0.0)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、建設業27.2(同33.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲14.2(同▲7.1)である。

平成26年3月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成25年 10月	11月	12月	平成26年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
全産業	△ 8.1	△ 5.7	△ 1.2	△ 11.1	△ 9.4	△ 3.7	△ 6.2 (△ 7.0)
建設	△ 29.1	△ 29.1	△ 27.2	△ 33.3	△ 29.1	△ 22.7	△ 27.2 (△ 33.3)
製造	△ 18.7	±0.0	▲ 7.1	△ 11.1	△ 16.6	±0.0	△ 6.6 (±0.0)
卸・小売	▲ 9.6	▲ 6.0	▲ 11.4	▲ 9.3	▲ 7.1	▲ 10.7	▲ 14.2 (▲ 7.1)
サービス	±0.0	±0.0	±0.0	△ 18.7	±0.0	△ 6.6	△ 13.3 (±0.0)



【平成26年3月の資金繰りについての状況】

○ 3月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲6. 2(前月水準▲12. 9)となり、マイナス幅が6. 7ポイント縮小した。

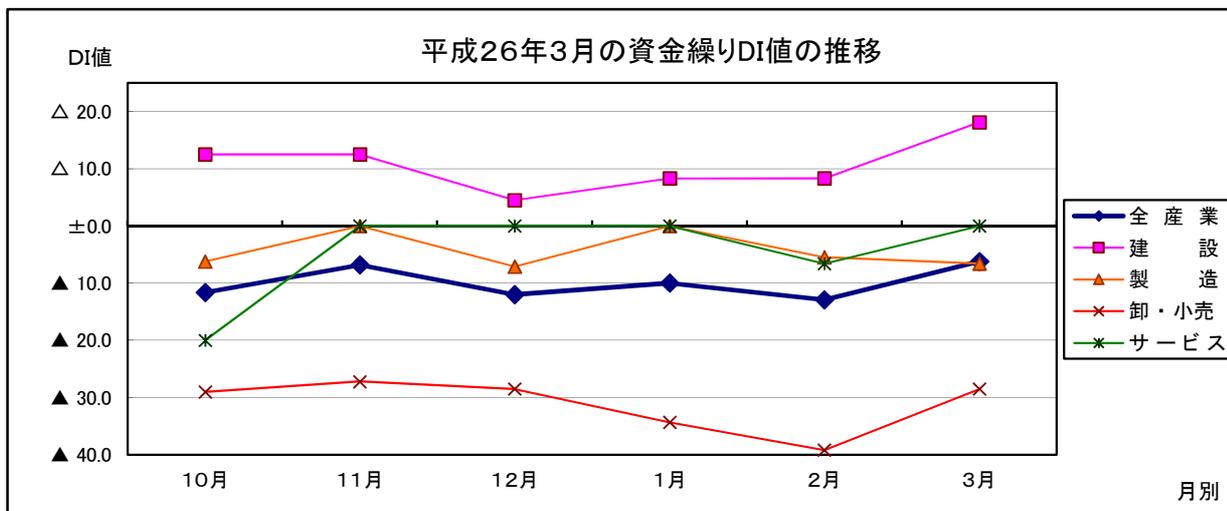
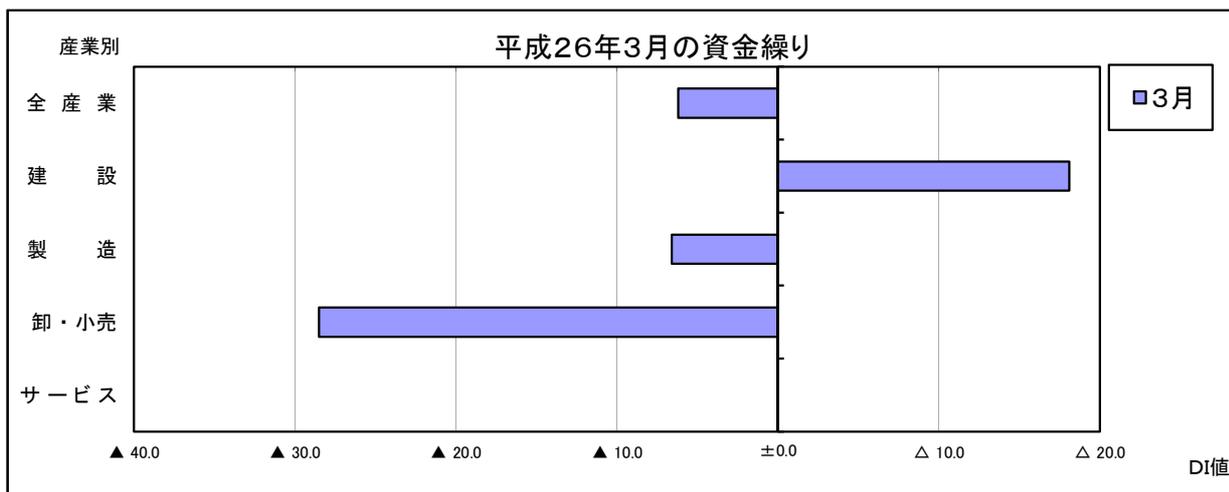
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、建設業18. 1(同8. 3)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲28. 5(同▲39. 2)、サービス業±0. 0(同▲6. 6)である。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲6. 6(同▲5. 5)である。

○ 向こう3ヶ月(4月から6月)の先行き見通しについては、全産業では、▲16. 2(前月水準▲10. 5)となり、マイナス幅が▲5. 7ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、サービス業6. 6(同▲6. 6)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、建設業4. 5(同12. 5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲33. 3(同▲11. 1)、卸小売業▲35. 7(同▲32. 1)である。特に、製造業はマイナス幅が▲22. 2ポイントと大幅に拡大する見通しである。

平成26年3月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成25年 10月	11月	12月	平成26年 1月	2月	3月	先行き見通し 4月~6月(3月~5月)
全産業	▲11.6	▲6.8	▲12.0	▲10.0	▲12.9	▲6.2	▲16.2(▲10.5)
建設	△12.5	△12.5	△4.5	△8.3	△8.3	△18.1	△4.5(△12.5)
製造	▲6.2	±0.0	▲7.1	±0.0	▲5.5	▲6.6	▲33.3(▲11.1)
卸・小売	▲29.0	▲27.2	▲28.5	▲34.3	▲39.2	▲28.5	▲35.7(▲32.1)
サービス	▲20.0	±0.0	±0.0	±0.0	▲6.6	±0.0	△6.6(▲6.6)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	△ 5.0	▲ 22.5	▲ 8.7	▲ 33.7	▲ 45.0	▲ 55.0	△ 3.7	△ 6.2
建設	△ 13.6	△ 9.0	△ 9.0	▲ 4.5	▲ 40.9	▲ 59.0	△ 22.7	△ 27.2
製造	△ 6.6	▲ 46.6	▲ 6.6	▲ 53.3	▲ 46.6	▲ 60.0	±0.0	△ 6.6
卸・小売	△ 3.5	▲ 42.8	▲ 21.4	▲ 57.1	▲ 60.7	▲ 57.1	▲ 10.7	▲ 14.2
サービス	▲ 6.6	▲ 6.6	▲ 13.3	▲ 13.3	▲ 20.0	▲ 40.0	△ 6.6	△ 13.3

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 11.2	▲ 30.0	▲ 6.2	▲ 16.2
建設	△ 4.5	▲ 22.7	△ 18.1	△ 4.5
製造	±0.0	▲ 33.3	▲ 6.6	▲ 33.3
卸・小売	▲ 32.1	▲ 46.4	▲ 28.5	▲ 35.7
サービス	▲ 6.6	▲ 6.6	±0.0	△ 6.6

【平成26年3月の業種別業界内トピックス】

業種別	概況	キーワード	業種
建設	消費税UP後がどうなるのか？見えるような見えない感じです。ただ、悲観はしていません。	消費税増税 先行き不透明	一般土木建築工事業
	消費税増税前の駆け込みで売上は上昇。4月以後の落ち込みが心配。マスコミ報道に国民は左右されていると思う	消費税増税 駆け込み需要 売上増加 4月の反動	電気工事業
	消費税が増税される為問い合わせが増加し受注も増えているが、受注価格は依然として抑えられてしまう。転嫁はある程度できると思うがすべては厳しいと思う	消費税増税 受注増加 価格抑制 価格転嫁	塗装工事業
	消費税増税の影響で、増税前にとお客様からの問い合わせがうれしい限り。増税後も畳の良さを伝え続けていきたい	消費税増税 問い合わせ増加	内装工事業
選別の段階に入ったかに思えたのですが意外に手堅く好調に推移している。これは長く不況が続いていたうちに相当淘汰されてしまったのかと考えられる。油断はできませんがこの消費税8%はクリアできそうです	売上堅調 消費税増税	一般土木建築工事業	
工業	弊社の看板商品が刷新されました。消費増税に負けないように積極的なPR活動を行う予定です	商品リニューアル 消費税増税 PR活動	畜産食料品製造業
	消費税が上がり、仕入れ総額が増加してもお客様には理解されず前年同様の総額受注となりその分利益は抑えられてしまう	消費税増税	印刷業
	仕入れ価格の動向：軒並み、樹脂・ゴムを使用する部品メーカー数社から同様の文面での値上げ要請が提出されて来ている。理由としては、「円安で原油・ナフサを原料とする、塩ビ・ゴム等の主原料が価格上昇。更に生産に係わる電力料金の値上げや輸送コストの高騰。よって、価格改定をお願いしたい」要請に対して受けざるを得ないが、販売価格に転嫁できず苦しい状況である。	仕入価格値上げ 原材料高騰 コスト増加 価格転嫁	その他の機械・同部品製造業
	前月に引き続き消費税増税前の駆け込み需要有り。4月以降は業績感不透明	消費税増税 駆け込み需要 先行き不透明	酒類製造業
	静かなる値上げの形で潜行的に進んでいた段原紙の価格交渉が3月に入って一挙に始まってきたようだ	値上げ 価格交渉	紙製容器製造業
	消費税アップ後業態がどうなるかは静観するしかないと思う。駆け込み消費についてマスコミのあおりが消費者を動かしている気がするが長く続くものでもないと思う。落ち着いた状態になるまでは早計な判断はできない	消費税増税 駆け込み需要 マスコミ扇動	印刷業
設備投資を行ったが稼働率が低下している。また消費税の引き上げに伴い経費負担の増加が見込まれる	設備投資 稼働率低下 消費税増税 経費増加	一般産業用機械・装置製造業	
	時計・宝飾品の高額品の動きが活発になるものの、婦人衣料は気温上がらず苦戦。増税前の特需は、化粧品・インナーウェア・宝飾・時計などの高額商材に顕著に現れ、当初想定していた97年の動きと類似している。4月以降も97年と同様の推移を想定しており前年回復までは数カ月要すると考えている。	高額品好調 衣料品苦戦 駆け込み需要 4月の反動	百貨店
	中旬くらいまで低温で春物不調。衣料品は家電等の増税先買いに押され割を食っている感じ。4月以降は益々不安	春物不調 駆け込み需要 先行き不安	婦人・子供服小売業
	消費税率引き上げはある程度やむを得ないが歳出内容に課題が大きい。価格表示方法について再び総額表示の義務化へ戻すのはやめて貰いたい。外税の選択ができるよう改正をのぞみます	消費税増税 価格表示	書籍・文具小売業
	消費税8%への準備に追われています(値札の交換、POPの準備等)買い溜めするお客様が増えだしています。米、食料品、調味料や洗剤、トイレトーパー等	消費税増税 駆け込み需要	その他の各種商品小売業
	4月からの消費税増税で嗜好品であるケーキに影響が出るのではないかと懸念	消費税増税	菓子・パン小売業

【平成26年3月の業種別業界内トピックス】

卸小売	客数は前年並みでも単価増で前年対比で伸びている。パートアルバイトの募集は人材が集まりにくくなっている	単価上昇 利益増加 人材不足	その他の各種商品小売業
	青果物野菜の最近の動きは品薄傾向の高値状況でしたが、最近の気温上昇から少しずつ入荷が増える見込みとなってきたようです。これに伴い値ごろ感まで価格が戻る商品も予想されます。また果実も同様ですがりんごみかん等の一部においては高値が続くものと思われます。今後は4月1日の消費税増税による消費者の生活スタイルに変化が生じることも予想されます。節約型の消費となり生鮮食料品の減少にもなりかねません。しかしアイデア商品や地域の活性化のためのイベントが起こることを期待したいものです(消費拡大対策)市場担当として、安心・安全な商品を継続して提供する為、全国からの情報を取り、発想の転換を図って行き	青果物高値 気候の影響 消費税増税 生活スタイル変化 消費減少 地域活性イベント	食料・飲料卸売業
	苦渋の決断で総売り上げの75%を占めるガス料金の価格改正をした。結果3月には赤字幅が減少した。少しでも赤字幅を少なくするには何に重点を置くか考慮中です	ガス価格改正 赤字減少	燃料小売業
	消費税アップの4月からはさらに厳しい業況になるのではと懸念されます	消費税増税 厳しい業況	花・植木小売業
サービス	最悪な状態は終わり3月は前年同月の水準に戻したが来月はどのようにお客様が利用されるのか予想が付きません	先行き不透明	酒場・ビヤホール
	宿泊は柏全体のシェアは上がり稼働は上がるもののWEB販売により客単価の減少となり清掃・リネン費等の原価が増え収益が悪化。宴会は謝恩会、送別会の獲得が大きく件数単価ともに昨年並みを推移。宴席の問い合わせが多いが日時が重なっているため獲得できず。消費税の値上げにより、仕入れ単価が若干あがる。	稼働率上昇 客単価減少 収益悪化 宴会平年並み	ホテル
	消費税の価格表示対応で超多忙。対応のため1日休業予定。来年の10%への対応で仕入れ単価の上昇が見られる	消費税増税 価格表示 仕入単価上昇	その他の飲食料点小売業
	消費税増税により仕入れ単価の上昇。ベースアップによる個人観光需要への期待感がある	消費税増税 仕入単価上昇 ベースアップ	旅行業
	消費税駆け込み需要後4月から新築建売。戸建て及びマンションの落ち込みが考えられる	消費税増税 駆け込み需要	不動産代理業・仲介業
	消費税のかけこみ需要も終わり、市況は厳しくなっています。先月に続き建築材料、人手ともに高騰しています	消費税増税 駆け込み需要 厳しい業況 材料高騰 人手不足	不動産管理業
消費税率引き上げによる表示やお客様への通知作業に追われました。4月以降の消費の冷え込みは仕方ないと思っています。	消費税増税 消費冷え込み	不動産賃貸業	
現況は年度末と消費税対策駆け込みがあり、作業員が足りなく仕入れ単価は上昇している状態。来年度は、見込みが薄く展開に苦慮している。好転を願うばかり	消費税増税 仕入単価上昇 先行き不安	ソフトウェア業	

◎消費税増税

- ・ 消費税が増税されるため問い合わせが増加し受注も増えているが、受注価格は依然として抑えられてしまう。転嫁はある程度できると思うがすべては厳しいと思う
- ・ 消費税が上がり、仕入れ総額が増加してもお客様には理解されず前年同様印刷業の総額受注となりその分利益は抑えられてしまう
- ・ 消費税の価格表示対応で超多忙。対応のため1日休業予定。来年の10% その他の飲食料品小売業への対応で仕入れ単価の上昇が見られる
- ・ 消費税率引き上げによる表示やお客様への通知作業に追われました。4月 不動産賃貸業以降の消費の冷え込みは仕方ないと思っています

◎駆け込み需要

- ・ 消費税増税前の駆け込みで売上は上昇。4月以後の落ち込みが心配。マス 電気工事業コミ報道に国民は左右されていると思う
- ・ 前月に引き続き消費税増税前の駆け込み需要有り。4月以降は業績感不透明 酒類製造業
- ・ 時計・宝飾品の高額品の動きが活発になるものの、婦人衣料は気温上がり百貨店が苦戦。増税前の特需は、化粧品・インナーウェア・宝飾・時計などの高額商材に顕著に現れ、当初想定していた97年の動きと類似している。4月以降も97年と同様の推移を想定しており前年回復までは数カ月要すると思っている
- ・ 消費税駆け込み需要後4月から新築建売。戸建て及びマンションの落ち込み不動産代理業・仲介業が考えられる
- ・ 消費税増税の影響で、増税前にとお客様からの問い合わせがうれしい限り 内装工事業。増税後も畳の良さを伝え続けていきたい

◎仕入単価上昇

- ・ 消費税増税により仕入れ単価の上昇。ベースアップによる個人観光需要への旅行業期待感がある
- ・ 現況は年度末と消費税対策駆け込みがあり、作業員が足りなく仕入れ単価 ソフトウェア業は上昇している状態。来年度は、見込みが薄く展開に苦慮している。好転を願うばかり
- ・ 静かなる値上げの形で潜行的に進んでいた段原紙の価格交渉が3月に入っ 紙製容器製造業で一挙に始まってきたようだ

平成26年3月CCI - LOBOとの比較

- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲11.2に対し、「CCI-LOBO」が▲4.4で柏の方がマイナス幅が6.8ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種はサービス業で10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は建設業、製造業、卸小売業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が5.0に対し、「CCI-LOBO」が8.0で柏の方がプラス幅が3.0ポイント小さい。すべての業種で「柏の景気」の方が悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲8.7に対し、「CCI-LOBO」が▲9.8で柏の方がマイナス幅が1.1ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業、サービス業で、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業、卸小売業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲45.0に対し、「CCI-LOBO」が▲49.6で、柏の方がマイナス幅が4.6ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業、製造業、サービス業で、建設業とサービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業で、10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が3.7に対し、「CCI-LOBO」が11.4で柏の方がプラス幅が7.7ポイント小さい。すべての業種で「柏の景気」の方が悪く、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲6.2に対し、「CCI-LOBO」が▲9.8で柏の方がマイナス幅が3.6ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業、製造業、サービス業で、建設業、サービス業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業で10ポイント以上悪い。

平成26年3月の木の景気天気図

木の景気情報と全国CCI-LOBOとの比較

景気天気図					
	特に好調 DI \geq 50	好調 50>DI \geq 25	まあまあ 25>DI \geq 0	不振 0>DI \geq ▲25	極めて不振 ▲25>DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 11.2	 △ 4.5	 ±0.0	 ▲ 32.1	 ▲ 6.6
CCI-LOBO	 ▲ 4.4	 △ 11.0	 △ 0.6	 ▲ 6.3	 ▲ 17.3

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 △ 5.0	 △ 13.6	 △ 6.6	 △ 3.5	 ▲ 6.6
CCI-LOBO	 △ 8.0	 △ 20.7	 △ 12.3	 △ 5.1	 ▲ 3.1

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 8.7	 △ 9.0	 ▲ 6.6	 ▲ 21.4	 ▲ 13.3
CCI-LOBO	 ▲ 9.8	 ▲ 3.4	 ▲ 5.0	 ▲ 10.4	 ▲ 17.6

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 45.0	 ▲ 40.9	 ▲ 46.6	 ▲ 60.7	 ▲ 20.0
CCI-LOBO	 ▲ 49.6	 ▲ 67.8	 ▲ 52.2	 ▲ 40.2	 ▲ 42.7

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 △ 3.7	 △ 22.7	 ±0.0	 ▲ 10.7	 △ 6.6
CCI-LOBO	 △ 11.4	 △ 23.8	 △ 8.1	 △ 9.9	 △ 12.3

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 6.2	 △ 18.1	 ▲ 6.6	 ▲ 28.5	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 9.8	 ▲ 4.6	 ▲ 7.2	 ▲ 13.3	 ▲ 14.9

 は「木の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「木の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測 (3月速報)

調査期間：平成26年3月14日～20日

調査対象：全国の429商工会議所が3155業種
組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況DIは、駆け込み需要を背景に改善。先行きは不安感が一段と拡大

3月の全産業合計の業況DIは、▲4.4と、前月から+3.3ポイントの改善。家電や日用品などを中心に消費税引き上げ前の駆け込み需要がピークを迎え、製造業・非製造業を問わず、受注・売上増加による業況改善が進む。他方で、仕入・電力料金などのコスト増や、人材確保を背景とする人件費の負担増に加え、駆け込み需要の反動減への不安が一段と広がっており、受注・売上の低迷を見込む地域の中小企業からは、経営悪化を懸念する声が多く聞かれる。

先行きについては、先行き見通しDIが▲28.2（今月比▲23.8ポイント）と、大幅な悪化を見込む。一部で夏頃には業績が回復するとの声聞かれるものの、仕入コストや電力料金、人件費などの負担増が続く中、駆け込み需要の反動減による受注低迷や消費者のマイナズ低下に加え、取引先からコストダウン要請が強まることが見込まれるなど、先行き不安が一段と広がっている。

産業別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、建設業で悪化、製造業、サービス業でほぼ横ばい、その他の2業種で改善した。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「公共工事の増加に伴い、受注は好調。他方で、技術職不足が深刻化しており、若年層の人材育成が課題となつている」（建築工事業）、「住宅関連は耐震化や建て替えなどがほぼ完了したが、新規受注が乏しく、先行きが見通せない」（建築工事業）、「売上は好調なもの、人件費や資材価格の上昇が続いており、一層の収益圧迫を懸念している」（電気工事業）

【製造業】「駆け込み需要がピークを迎えており、売上は大幅に伸びている」（カバン製造業）、「電力料金の負担が重いため、省エネで生産効率の高い設備へ切り替える予定」（引抜鋼管製造業）、「原材料価格が高止まりする中、取引先からのコストダウン要請が強まることが見込まれるため、経費削減に注力する」（自動車部品製造業）

【卸売業】「公共工事の発注が相次ぎ、取引先の建設会社から引き合いが増加している」（建築材料卸売業）、「4月以降の受注低迷が見込まれる中、競合他社との価格競争激化に伴う採算悪化が心配」（家具卸売業）、「足元の売上は伸びているが、4月以降の落ち込み度合が予想できず、先行きが不透明」（繊維品卸売業）

【小売業】「消費税引き上げ前の駆け込み需要が本格化。特に、ブランド衣料品や化粧品などが好調」（百貨店）、「取引先への贈答用など、ビジネス客の利用が伸びている」（和菓子販売店）、「電池や電球をはじめ、生活必需品を買い揃える動きが活発化している」（商店街）

業

【サービス業】「荷動きが増えているものの、ドライバーやトラックの不足が深刻」（運送業）、「歓送迎会シーズンを迎え、客足が伸びているものの、食材の仕入コストや光熱費の負担が重く、収益に結びついていない」（飲食店）、「企業の宿泊利用が増えているが、4月以降、観光客

の消費手控えによる売上減少が見込まれる」（旅館業）

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
10月	▲11.9	18.2	▲13.7	▲17.5	▲22.8	▲18.4
11月	▲12.8	14.6	▲11.1	▲16.2	▲26.8	▲18.8
12月	▲7.4	14	▲2.4	▲10.6	▲24.2	▲9.1
1月	▲3.1	18.4	1.9	▲9.1	▲14.3	▲10.4
2月	▲7.7	12.7	0.3	▲15.3	▲16.8	▲16.8
3月	▲4.4	11.0	0.6	▲5.7	▲6.3	▲17.3
見通し	▲28.2	▲11.5	▲22.5	▲30.6	▲50.9	▲22.4

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI